

武雄市議会だより
栄八通信

第 36 号



武雄市議会議員
宮本 栄八
TEL・FAX 23-0750
携帯 090-5083-0793

147 10 月末発行

武雄市民病院の池友会への
売却に賛成できない
5つの理由

1 市民病院の売却の理由
「6億円の赤字論」は見当違い

まだ、市民の中には、武雄市民病院の民間移譲の理由を、樋渡市長が当初言っていた、「開設以来の、約6億円の累積赤字で、教育や福祉の予算が削られたり、税金が投入される。」との筋違いや誤解した言い訳を、まともに信じている方も多い。

本来、武雄市が、詳細を市民に知らせるべきと思うが、それがないので、私が再度説明します。

平成11年3月に作成された、市民病院開設の時の、整備計画書には、H17年度までの6年間で、表の様に約6億円の赤字になる計画が、当初より、予定されていて、それが、特別委員会や議会でも承認されて、市民病院が開設された。

その予定の赤字額を、大幅に越えれば話は別ですが、結果、ほぼ予定どおりの約6億円の赤字額で、

(単位: 百万円)	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年	18年	合計	
当初 計画	－	61	366	106	53	42	33	26	33	6億02
経営 実績	－	57	107	118	53	60	110	74	76	6億55

知らせるべきと思うが、それがないので、私が再度説明します。

平成11年3月に作成された、市民病院開設の時の、整備計画書には、H17年度までの6年間で、表の様に約6億円の赤字になる計画が、当初より、予定されていて、それが、特別委員会や議会で承認されて、市民病院が開設された。

その予定の赤字額を、大幅に越えれば話は別ですが、結果、ほぼ予定どおりの約6億円の赤字額で、

上の黒字には、なりません。

現に、武雄市が、H18年に発注した、経営診断に、市民病院を再度、建替えた時の収支予測を、記述してありますが、そこでも、赤字は7年目に解消し、14年目に資本を回収すると明記してある。

また、合併で、市民病院が、2つになる為に、小さい方を民間に移譲した、岡山県の吉備病院を引き受けた済生会の、計画書にも、8年目に黒字化が提案されているのが、ホームページに公表されている。など、病院は、8年、9年目から黒字化するのが普通です。

実際、樋渡市長が移譲問題で経営を混乱させなければ、H19年度は4千万円の上半期黒字化は、市報でも報告され、H20年度は当初より黒字予算を可決していた。

さらに、開設時の改築工事等の借入れの企業債の償還が、H14、H17年度まで年間約2億円の元利払いが、H19年度以降、¼の約5千万円程度に下がる為にH19年度に黒字化すれば以降は黒字決算が続くことが予想された。

2 市民病院を売却すると
10億円以上の市民負担が発生

武雄市市民病院は、国や県から、約7億円の補助を受け、自ら、企業債と言う、国からの借金約17億円をし、H12年2月に開院した。

長期借入	1億円
企業債	12億円
退職金	4億円
病院混乱	6億円
合計	23億円

借入金返済状況								(単位：億円)
	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19
長期借入	2億9	2.9	2.9	2.1	2.1	2.0	1.6	1億1
企 業 債	17億2	17.3	15.9	14.2	12.4	10億8	11.8	12億1
合 計	20億1	20.2	18.8	16.4	14.5	12.8	13.4	13億2

その後1億円増えたのは、CTなどの高額医療機械を入れ替えたためで、医療の質を落すことなく着実に返済をしてきました。

一方、表上段に、長期借入金、約3億円が別にありますが、その内の2億円は、手持ちの運転資金で、収支には、直接関係ないと思われまふ。残り約1億円は、H11年度2ヶ月と、H12年度は、開設まもなく、患者の利用もまだ少なかった為に、支払の不要な、経費である、減価償却費が、6千4百万円に達し、当年度赤字が、1億5千9百万円であり、経理上も、実質も赤字であり、資金不足で、約1億円を、銀行から、別に長期借入した。それとの合計の約3億円の長期借入がある。

しかし、現在、H19年度末で、約1億円の残金になっていて、実質赤字は、すでに解消している。

本題に入るが、今、市民病院を売却すると、建設時の起債残額の約12億円と、長期借入金約1億の合計13億円が、収入源が断たれ支払不能になり、それこそ、一般会計(福祉や教育等)からの補填が必要になる。

それに、看護師等の退職金、約4億円と、市長の作った病院の混乱の赤字6億円、合計23億円から和白への土地(約2億円)建物(査定中)の売却益を引いても、10億円以上は市民負担が発生する。

3 移譲先選定は不公平な
「出来レース」の疑い!

市民病院の移譲先の選定についても、問題がある。

どう見ても、選定は、当初より池友会(和白白病院)に移譲させる為の「出来レース」としか取れず、不公平・不透明な入札である。

具体的には、選定の公募開始はH20年の6月2日です。しかし①昨年H19年の10月17日に、市長が九州市長会のパーティーの席で、市内の開業医師に対して、「市民病院を和白に売りたい」との意向を

H20年	H19年	H18年
6月2日 公募開始 6月5日 現地説明会 (池友会・敬愛会参加) 6月16日 公募〆切り 7月7日 和白を優先交渉権者と答弁	5月20日 ビジョン提出 5月30日 移譲先選定予算 12月23日 新仁徳病院10周年パーティーに市長招待される。 12月20日 行政問題審議会 原会長「専門審議会」の設置と慎重な検討と意見 11月13日 樋高院長に和白の院長より「民営化責任もつ」との電話があった。 10月17日 パーティー会場でも市長「和白へ売却」を表明	(冬) 和白と会ったと議会答弁 10月17日 パーティー会場でも市長「和白へ売却」を表明

すでに打診していたこと。

②H19年11月13日に、樋高市民病院長に対し、同じ九州大学出身で先輩になると言う、和白病院長から、何十年ぶりに電話があり、「和白への民営化については、責任をもってやる。」との主旨の表明がされたということ。

③H19年12月23日に、池友会の系列病院である、福岡県の「新行橋病院」の十周年パーティーに市長が招待されて参加していたこと。

④H20年5月以前に、和白の単独応募をカモフラージュする為とも見える動きもあった。これは、敬愛会(佐賀記念病院)に対し、市当局が、「公募に応じて欲しい」と依頼をした。と言うこと。

⑤H20年6月2日に移譲先公募を開始し、わずか、三日後の6月5日には、病院の現地説明会を行ない、6月16日には〆切りと、多くの医療機関が、公募参加を検討する時間さえ無く、実質的には、以前より情報を入手している和白に対して、極めて有利な選定である。

⑥H20年7月7日に、和白が、移譲の優先交渉権者として、「武雄市民病院移譲先選考委員会」が、決定したが、その選考委員は、市長が任命しているが、委員の氏名も非公開で、選定の透明性がない。

以上、市民の方が、公平な目で見て、不公平、不正と感じられるのではないかと思います。

4 市民病院の設置目的「2次医療と地域連携」の崩壊

医師会の方が、移譲に反対されている主な理由が、市内からの二次医療病院の消失です。

医療は、一次・二次・三次医療と分れていて、病気の重さの順に対応しています。

一次は、町の開業医での初期診療です。二次は、主に入院患者に対応した総合的診療をします。

この一次と二次は、連携して各地域の患者に対応する様になっています。県は「佐賀県地域医療計画」を立て、県内を、5ブロックに分けて、交通負担なども考えて、その地域で、一般的な病気やケガに対応する様に計画。

具体的には、武雄市は、南部医療圏として、いわゆる杵藤地区内で対応する計画になっています。ここで、一番重大問題が、「ベッド数の制限」です。国の医療費削減もあって、南部医療圏に与えられた、標準病床数（ベッド数）は、

2070床で、現状は、2437床あり、すでに、367床が過剰ベッドとなっていて、新に二次医療の病院を作ることではできません。武雄市も、H12年に、国立武雄病院の、廃止に伴ない二次医療の115床のベッドを市内にとどめる為に困難を承知の上で市民病院の形で、嬉野病院から、特別に20床譲り受け一般病床135床を確保した市民の財産です。

はつきり言って、市長は、この病院問題に対し、強引な推進はしているものの、本当の意味で、武雄市民の代表として、市民の利益を代弁し主体的に動いていない。また、市民病院開設者としての経営責任も果たしていない。

分限免職

これは、病院職員（約80人）を移譲するH22年2月に、全員解雇するもので、簡単に言えば、職場が廃止されるので、同時に首にならなければならない。市はこれを使って解雇するの方針。しかし、職員に落度はなく、一方的な処分、市長は、職員の雇用は守るとして、池友会への希望者の全員採用を言うが、具体的な、雇用条件など示さず、和自まかせのやり方を

市民病院のチラシ

市民病院の救急再開の違法チラシだが、和自から来ている事務職員まかせで、市内業者に発注せず福岡の業者を利用するなど、すでに主導権は取られている。

医師派遣は正職員無し

池友会を選考委員会が優先交渉権者に選んだ理由としては、医師派遣力を評価しての決定だった。しかし、何と、正職員は1人も派遣されていない。わずか新人の専修医3人のみが任期付き職員で、あとは嘱託職員が不定期に2〜3人程度。

さらに、内科専門医は、ほとんどいない。そんな中で、24時間365日の診療体制を宣伝する市長の良心を疑う。早く、現在の外来診療医師5〜6人体制から、以前の佐大の時の12人までは、派遣を求めるべきとの問いに、まだ患者がかばった様な市の答弁。

5 「市の主体性の放棄」で和自の実質買収状態

救急搬入入り口改造

約425万円を使い、改造した。しかし、また、福岡の業者に発注していた。議会での追求に、「工事をお盆にしたので……」との言い訳だが、地元への発注はおろか、見積りも取らず、和自関係の業者に発注していた。

また、市長は、9月18日病院うらで焼肉パーティーを約40人で開き、その費用は、この福岡の業者が支払ったと言う。話もある。

指導料月500万円

今9月議会に、池友会と市の、病院の「運営指導業務委託」の契約の議案があった。またもや19人の与党議員多数で可決。簡単に言えば、市が和自に対して、コンサル料金500万円を支払う契約で、しかも、8月11日まで、さかのぼって支払うもの。指導の内容は、病院改革、医師募集の指導まで、7項目あるが、具体的な業務内容は、一切示されていない。

市の方針は、一年半後に移譲すると言いつつ、いまさら病院改革や、医師募集の為に高額な指導料を払う必要もなく、まさに、市民の代弁者、交渉者でなく、和自の言いなりになっていて、主体性を放棄していると思えない。

一方9月議会の一般質問において多くの議員が、病院の最高責任者である、蒲池医療統括監を、答弁者として要請したが、市長は、蒲池氏を議会に出す手続きを取らず、大切な質問の機会を失った。また、この蒲池氏に、診療もせず、週2〜3日の非常勤にもかかわらず、武雄市長の給料89万円の約2倍の月額170万円支払うなど蒲池氏が武雄市を動かしている状況。

市長のリコール請求を活用し、民意を確かめよう

私は、6月頃までは、医師の言われる、「市長のリコール」までは、する必要はなく、民間移譲の問題点が明らかになってくれば、市長は慎重に対応されると思っていた。しかし、今回の民間移譲の過程を見てみると、まず、和自病院に売却することが、前提にあり、その後付けの理由として、赤字や医師不足や救急再開を言い訳にして市民に一方的な情報を流し、強引に進められている。

一方、市長は、議会の19人の賛成多数で、民意は得ていると主張されるが、私が感じる所では、和自への売却よりも、今までの、総合的な地域病院を望む市民も多い。

また、市民病院を止めれば、10億円以上の残債が市民に残り、市民にとっても重大な判断であり、市民の民意を確かめる必要がある。その為には、「住民投票条例の制定」も考えられるが、これは最終的に議会にかかると、19人の与党議員の関係で成立は難しい。

また、「次の市長選挙で、判断」すればとの意見もあるが、売却予定が、H22年2月と、選挙の前にあり、それでは意味がない。やはり、残された道は、市長のリコール（解職請求）を活用しての民意を確かめる方法しかない。これは、すぐ市長をやめさせるものでなく、3段階になっている。

制作後記と今後のプラン

栄八通信を、約10年間発行していますが、今回初めて、2面刷りに縮小しています。

理由は、現在、医師・市民・議員で作る、市民病院問題対策室に参加していて、そちらに時間も費用も集中することが、現在の、また将来の武雄市民の為になるとの判断からです。

やはり、私が知る限りでも、大きな選択の時と思うからです。私は、市長の言う、市民病院の売却の理由に納得がいきません。しかも、今売却すれば、10億円以上の借入れ残金が、市民の負担となつて残る事や、市内から、総合的二次医療の病院がなくなり、明らかに不便になるのが、わかっていながら、何もせずにいるのは、議員としての仕事をしていないと思うからです。こんな大きな選択の時に、市議として何が出来るのかですが、市長のリコール請求を立ち上げ、市民の意志を、直接反映できる場を作る所までは、責任上やらなければいけないと考えます。

その後の、リコール署名が集まるか解職投票の結果がどうなるかは、市民の皆様一人、一人の行動や判断にゆだねたいと思います。その、直接民主主義の結果として出た結論に従うつもりです。だから、市長の言う「病院問題を政争の具にしている」つもりもなく、住民意志の表明として活用しているだけです。ただ、リコール請求となれば、この際、市民病院問題だけでなく、4WDの市長公用車問題から始まり市長の政治手法までの市政全般の判断もできると思っています。